



「五感で楽しむ!伊勢志摩国立公園」

志摩自然保護官事務所 仲埜 公平

みなさんは「伊勢志摩」と聞いて何を思い浮かべますか？
伊勢神宮、海女、真珠、伊勢海老、牡蠣、英虞湾、離島…。

伊勢志摩国立公園は美しい自然だけでなく、古来より受け継がれる日本の伝統文化、豊富で美味しい海産物、終日遊べるレジャースポットまで、あらゆる魅力が詰まった国立公園です。



豊富な海の幸

伊勢志摩国立公園は、三重県の東側にある志摩半島を中心として、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町の3市1町にまたがっています。複雑に入り組むリアス式海岸と多くの島々の景観が美しく、砂浜海岸にはアカウミガメも産卵します。また、内陸部に目を向ければ、貴重な植物相が残る宮域林や暖帯性の常緑広葉樹が一面に広がっています。

そんな伊勢志摩で私がオススメするのは、なんといってもエコツアーです。志摩半島の沿岸部や英虞湾をカヤックでゆったりと海上散歩すれば、間近にせまる

ダイナミックな岩や崖に圧倒されたり、海に浮かぶ真珠養殖筏を眺めたり、車では到達できない浜に上陸することもできます。また、豊かな藻場・磯場をシュノーケルや磯観察をして覗いてみれば、多種多様な魚や貝の姿に目を奪われます。



雄大な自然を体感!

さらに、自然体験ツアーだけでなく、海女や漁師が築いてきた文化や町並み、離島ならではの風土などを、路地を歩いて地元の住民と言葉を交わしながら体感するというのも魅力的なツアーの一つです。

伊勢志摩を訪れてくださった皆さんには、まずこのようなエコツアーで五感をフルに使って地元の自然や文化を体感していただきたいと思っています。ツアーの後に食べる地元食材満載の食事は格別の味になりますし、伊勢志摩を好きになっていただけること間違いありません。是非一度、伊勢志摩国立公園へお越しください!

新 所 長 ご 挨拶



環境省長野自然環境事務所長

安田 直人

4月1日付けで自然環境局総務課動物愛護管理室から長野自然環境事務所長に着任しました安田です。長期的に地域の振興にも資するような自然環境の保全と利用を考えていきたいと思っています。

今年は、国際生物多様性年であり、10月には名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されます。「生物多様性」とは、どうも分かりにくく、なじみにくい言葉です。端的には、もともとそこにある生態系を健全な姿で保全し、場合によっては再生していくことを生物という切り口からみたものではないかと考えています。

管内には上信越高原国立公園と中部山岳国立公園という二つの国立公園が存在します。どちらも日本を代表する山岳地域の国立公園であり、面積では日本の国立公園の中で2番目、4番目の広さをもっています。それぞれ日本固有の山岳環境を有しており、希少な動植物も含め多様な生物が生息しています。生物の多様性は、このような原生的な自然環境から身近な環境まで、いずれにおいても、健全な環境を維持していくために、また様々な活用方法を秘めた自然資源という観点からも重要なものです。よく言われる持続可能な環境、社会を維持していくための指標にもなるのだと思います。

私たちの仕事は、まず地域を知るところからはじまると思っています。なるべく早く現地を見て、現地の生活に慣れ、地域の方々と一緒に話ができるように努力していきたいと思っています。

生物多様性の保全ということも含め、地域の元気に資するような持続可能な社会の実現に向け、地域の方々と一緒に取り組んでいきたいと思っています。